

# UIFA JAP●N NEWSLETTER

■主な内容

特集：第1回～第10回までのUIFA世界大会

HISTORY OF UIFA

- 第1回パリ大会
- 第4回ラムサール（イラン）大会
- 第7回ベルリン大会
- 第8回ワシントンD.C.大会
- 第9回コペンハーゲン大会
- 第10回ケイプタウン（南ア）大会
- 第7回海外交流の会 オランダ編

特集：第1回～第10回までのUIFA世界大会

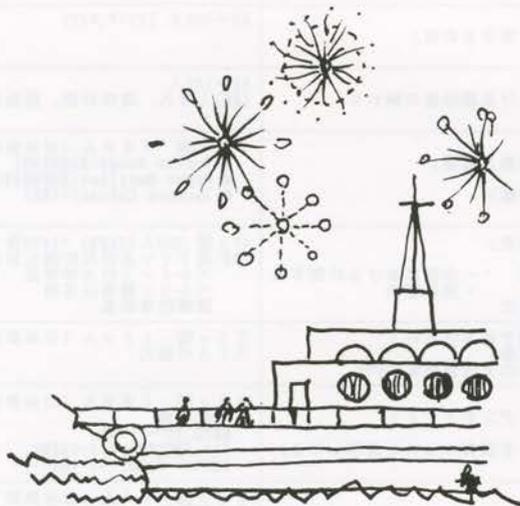
■HISTORY OF UIFA (UNION INTERNATIONALE DES FEMMES ARCHITECTES)

年	開催地	内容	テーマ	後援者・参加者 他
1963	パリ	UIFA設立	*女性建築家の作品	
1963	パリ	第1回大会 第1回国際展覧会* } 同時開催	「世界の女性建築家」 「女性によってつくられた現代都市と集合住宅」	35ヶ国（日本参加） M. Magiol (建設住宅大臣) M. Anayé Walrau (文化大臣) M. Duvaut (AAP会長・建設者) Mme. Hughes (イギリス初の女性建築家)
1969	モナコ	第2回大会（国際展覧会同時開催）	「新しい都市整備に於ける女性建築家の関わり」	140名（日本参加） (後援) Princesse Grace (王妃)
1972	ブカレスト	第3回大会（国際展覧会同時開催）	「新しい都の空間を人間的なものにするための女性建築家の意見と協力」	28ヶ国 ルーマニア女性建築家協会主催 (後援) M. Ceausescu 大統領
1976	ラムサール	第4回大会（国際展覧会同時開催）	「建築における文化的同一性」	18ヶ国（日本参加） UIFA名誉会長 フェアラ王妃 (後援) イラン政府
1978	パリ (ネジド-センター)	UIFA作品展	テーマなし	23ヶ国：80人（日本参加） M. Jacques Chirac 大統領 (後援) Pompidou氏
1979	シアトル	第5回大会（国際展覧会同時開催）	「変化に対応する新しいデザインの概念」	53ヶ国（日本参加） M. J. Carter 大統領 Mme. Donnashaijala (住宅省) M. Louisde Moll (UIFA会長) M. Bhrmann (AIA会長)
1979	ベルリン	アトリエUIFA (No.1)	「建築と都市計画における女性」	80~100人 (オランダ、ドイツ)
1981	ベルリン	アトリエUIFA (No.2)	「住環境の設計における居住者の関わり」	80~100人 (後援) IBA, 連邦計画, 建設省
1983	パリ	第6回大会（国際展覧会同時開催）	「子どものための建築と環境」 (UIFA 20周年記念)	47ヶ国：260人（日本参加） M. Yvette Roudy (婦人労働大臣) M. Reger Quilliot (都市計画住宅省大臣) M. Jacques Chirac (パリ市長)
1984	ベルリン	第7回大会（国際展覧会同時開催） IBAのレポートイヤーの一部担当 (1987年がベルリン市開設750周年)	「女性の建築家の歴史」 ・住宅と居住環境 ・各国における計画手法 ・建築原論 ・建築理念 ・女性建築家の歴史	47ヶ国：250人(日本参加) 共480枚 (後援) 西ドイツ連邦共和国大統領 ベルリン工科大学学長 ベルリン建築住宅局 建築住宅局長
1988	ワシントンD.C.	第8回大会（国際展覧会同時開催）	「国際的普遍的課題である住まい」 (UIFA 25周年記念) (アメリカ合衆国初の女性建築家100年)	25ヶ国：150人（日本参加） AIAの協力
1991	コペンハーゲン	第9回大会（国際展覧会同時開催）	「建築におけるアイデンティティ」 (各国の建築における固有のものを保存し守る)	38ヶ国：180人（日本参加） 45題発表 建設大臣、コペンハーゲン市長、 デンマーク国立女性協会、デンマーク女性協会、 王立コペンハーゲン大学、デンマーク建築センター
1993	ケイプタウン	第10回大会	「変貌する社会」 (発展途上国の都市環境マネジメント)	20ヶ国：80人（日本参加6名） 27題発表 パネル3枚 南ア大統領デ・クラーク夫人 南アUIFA会長 南ア女性建築家協会

### ■第1回パリ大会

中原暢子

1963年パリで第1回U I F A世界大会が開催された。当時は1\$ = ¥360海外持ち出しは1人500\$と制限され、私も貧乏でしたからパリに行くなど考えもしていませんでした。しかし「ポドコ」の皆様の勧めや小林（草野）知恵子さんに動かされて出席を決心。程なく航海の廃止が決まっていたフランス客船「ベトナム号」(38,000ト)でマルセイユまで1ヶ月かけて到着。今では経験できない面白い旅だったが、それはさておき世界大会。先ず開会式。ここでは時の建設大臣や文化省大臣Mr. Adre Malroux、フランスの建築家協会会長など豪華な顔ぶれ、将来日本でこの会を開くとしたらとてもこんなわけにはいかないという印象とDe la Touruさんは男爵とはいえ随分力があるのだなーと思った。その後5日間の会議では、年配の方が多く女性建築家の歴史を感じた。また共産圏の人達は官庁勤めで、集合住宅にしても大規模の設計が目をつけた。また歓迎会もセーヌ川に船を浮かべ、花火を打ち上げるという派手なもので、特に寄付をしてくれたイランのファラ王妃代理の首相令嬢の美しさと社交性が目立った。会議後のロアール川沿いの2週間の見学旅行はフランスを知る上では面白かった。第1回目は学術的というより、親睦と情報交換そして華麗な会合であった。



### ■第4回イラン大会

大高真紀子

イランのラムサールを訪れたのは1977年10月、革命前のことです。建築を専攻されたというファラ王妃が開会式等に出席され会場の雰囲気は大いに盛り上がったものでした。日本からは中原会長、林雅子、山田初江両先生をはじめとする十数名が参加しました。会議は、中原会長、グェンジュリ夫人であるデニス・スコット・ブラウン、アリソン・スミッソンをはじめとする約30名の建築家が午前中に講演を行い、午後はパネルディスカッションという形式で行われました。メインテーマは「Cultural Identity in Architecture」でしたが、テーマの枠に縛られずに自由な討議が行われ、なかなか白熱したディスカッションもあり、右も左もわからない学生の私は大いに刺激を受けたものでした。ほとんどの建築家が建築だけではなく建築をとりまく環境を問題にしていたことなども印象的でした。

会議後、80名余りがイラン国内のバス旅行に参加しました。この旅行は素晴らしく、金とブルーにきらめくモスクや広大な砂漠、集落や遺跡は鮮烈な記憶となって私の脳裏に刻まれています。会議の中の「Culture」という言葉が景色とオーバーラップし、その土地の気候・風土に育まれた歴史と文化をきちんと理解することの大切さを噛みしめたものでした。

### ■第7回ベルリン大会

山田規矩子

このベルリン大会が、それまでのU I F Aの大会と大きく異なる点は、I B A (International Building Exhibition Berlin)の「Report Year 1984」の催しの一つとして、大会が開かれたということであろう。

I B Aは1987年、ベルリン市制750年記念に向けて、ベルリンの住環境の改善、集合住宅の建設、再開発等を行うというプログラムであった。U I F A大会のテーマもI B Aのプログラムに合わせて「住まいと住環境」であった。

11年前の大会の内容について、強く印象に残っている発表は無い。しかし、東京と同じように第2次大戦

で激しい空襲を受けたベルリンが、なお、市民へのより良い住環境の提供ということに対して熱心であり、粘り強く活動し、一般の人々の関心を引き起こす努力をもしていることに驚き、感心したので覚えている。

大会の後、UIFA主催の南ドイツツアーに参加した。陸の孤島ベルリンを出発し、東ドイツ領内を通過して西ドイツ領内に入った。検問所での、大きな犬を連れた兵士達による検査をバスの窓から見ていた時、6年後にこの恐ろしい検査が不要なものになろうとは想像もできないことであった。

#### ■第8回ワシントンD.C.大会 吉田洋子

ワシントンD.C.の会議で最も印象的だったのはFinal Partyです。今でもポトマック川の船上の楽しいざわめきがよみがえってきます。船の上で談笑したり、ダンスに興じたり、写真を撮り合ったり、会議が無事に終わった解放感もあってとてもよい雰囲気でした。

もう少し堅い会議かと思って少し緊張気味で日本を出発したのですが、ドラトゥールさんの気さくな雰囲気もあって和気あいあいの集まりでとても好印象で帰ってまいりました。国との関係より個人がとても大切にされている集まりで、女性のネットワークは世界へ出てよいものだなあと思いました。

初めての参加でしたのに図々しくも発表もしてきました。私が参加している横浜の地域活動やまちづくりの活動をスライドを使って発表したのですが、思いのほか大きな反響があってスピーチが終わるとたくさんの方が寄ってきて、抱きつかれたり握手を求められたりしたのも懐かしい思い出です。

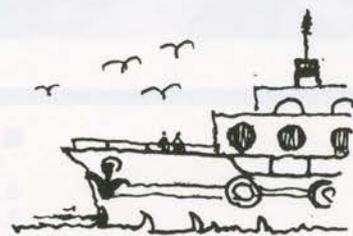
あの会議がバネとなって、その後、横浜のまちづくりに幅広く関わるようになり今に至っています。私の中では一つのエポック的な大切な経験でした。

#### ■第9回コペンハーゲン大会 小渡佳代子

古い街並みや博物館が数多く連なるコペンハーゲンで第9回大会が開催されました。会場はシャーロテンボー宮殿。宮殿といっても今では王立美術院が使っていて、全体会議は講堂、分科会は教室で行われました。テーマは「アイデンティティ」、スイスの人は「女性の建築家がどうすべきか追求する必要があるかも知れないが、女性か男性かの前に人間としてどうすべきかが第一である」、アメリカからは「男性と女性では光のエネルギーの脳での捉え方が異なり、建物を設計していく上で何か決定しようとする時、男性はモニュメンタルになり、女性はフレキシブルになる。世界は男女半々、どちらに偏ることなくバランス良く設計していくことが大切ではないか」「今、地球は環境、人種差別、民族問題等を抱えているが、子供を産み育てていくことを身をもって知っている女性達が今こそ力を合わせていく必要がある」と熱っぽく話す人。「世界は西洋の文化が常にあって、異なった文化を見下す形でマイナー文化とする考え方があるが、建築はその建物が建つ場所、そこで活動する人、そこで行われる概念により、どれ一つが変化してもアイデンティティは変わる」と発表する人。建築の技術が最先端か、経済効率がよいかは全く問題にならず、さすが女性の会議だという感を深めました。

#### ■第10回ケープタウン大会

NEWSLETTER No.2 (July) 1993の号をご覧ください。



■第7回海外交流会の会

正宗量子

ーオランダのランドスタット地域と住宅問題ー

さる7月16日芸術劇場でワグの若い都市計画研究家を招いた交流会が開かれた。小規模ながらワグの住宅問題の一端を知る有意義な会だった。講師のマレ・ヘルゲンさんは、トレヒト大学で都市計画を、1994年アムステルダム大学院で公共住宅について学び、訪日後、ワグ工科大学のDr.フェルムス氏のもとで、ランドスタットと東京の比較、人口集中と住宅問題の研究を目的に持つ若いミセス。通訳のホリンボスマンは、大学卒業後都市景観を学び、1989年東大農学部で景観計画を研究の後、(株)アルゴ都市設計勤務の在日8年の若い通訳。活発な会員の質疑応答があり、ワグの住宅事情とその問題点、歴史的背景を知る上で興味あるものだった。テーマは①ワグにおけるランドスタット地域、②都市開発と公共住宅開発の歴史、③現在のワグにおける公共住宅開発の問題点とその解決の3点に絞られ、更に2本のVTRによりアムステルダムの19世紀の開発とその再開、新旧の住宅から公共施設等のロッテルダムの建築物などを鑑賞。ランドスタット地域とはアムステルダム、ロッテルダム、ハーグ、トレヒトの4都市からなり、グリーンハートと呼ばれる農業地域の広々としたオープンスペースの端に位置している。1901年に既にワグに住宅法ができた歴史的背景には、都市の拡大による公共住宅計画の供給策へつながる問題点が山積みされ、戦後は日本と同様住宅不足に悩みつつ、質と量のバランス、デザイン、土地問題へと過酷な自然を克服しながら都市問題を解決したという。



■第7回海外交流会の会に参加して

小島久美

ワグ・ランドスタット地区の地域計画についての報告が現場の若い担当者から聞け、臨場感があり参考になった。狭い地域に住・商・工が入り混んでいる点、地盤の条件の悪さ(古い松杭が水位変化のため危険に陥っている)等、我が国と重複する条件があり、その解決法など聞きたいところが多かった。環境確保のために残されてきた中心部空地のグリーンハートの存続が土地利用の効率化の理由で浸食されかねない状態や日本同様に政財政からのハウジングの配分が非常に少ない現状など大きな問題点を抱えながら、高額なアパートを造り売した利益をコスト住宅資金に廻したり、資金負担のない持家推進等の政府の方針には、持家政策により行き詰まっている日本の現状を考えると大きな疑問を感じている。

■役員会の報告

第3回役員会(95年5月24日)役員12名出席

第3回通常総会に向け議案書案の作成、韓日シンポジウム開催への協力、参加の検討。

第4回役員会(95年6月16日)役員9名出席

第3回通常総会の総括。韓日シンポジウムの打合せ。7月の海外交流会の検討。

第5回役員会(95年7月11日)役員10名出席

韓日シンポジウムの打合せ。女性科学技術者フォーラム、連絡会議の検討。7月海外交流会の打合せ。

第6回役員会(95年8月8日)役員10名出席

会計報告。第7回海外交流会総括。第8回海外交流会の検討。韓日シンポジウムの打合せ。

第7回役員会(95年8月29日)役員12名出席

韓日シンポジウムの準備経過、参加方法、発表原稿進捗の打合せ。UIFA12回日本開催の検討。

■広報だより

95年9月30日(土)パスコ会議室にて韓国女性建築家協会(KIFA)主催によるKIFA・UIFA JAPON韓日シンポジウム「21世紀新住居文化ー女性が主役である」が開催され、UIFA JAPON会員が10名程参加します。更に、この訪韓の機会をとらえて、慶州(新羅の王都)と河回村(韓国文化を知る上で貴重な田舎)への旅も企画しています。次号にこの模様を報告をいたします。